平成３０年度　学校だより

舞鶴小だより

平成３０年９月１８日号　文責　学校長　相河竜治

平成 30 年度 全国学力学習状況調査特集号

今年度の結果

国語は　A問題（「知識」に関する問題）もB問題（「活用」に関する問題）も
算数は　A問題（「知識」に関する問題）もB問題（「活用」に関する問題）も
理科も　（理科にはA問題もB問題も１つのテストに含まれています）

すべて県平均も全国平均も上回っていました！

全国学力学習状況調査って どんな調査ですか？

全国の小学校６年生と中学校３年生を対象に行うテストのこと。教科は算数（数学）と国語で行い、３年に一度程度、理科を行います。今年度は理科を行いました。

目的は、全国的な学力や学習状況を把握･分析して、教育施策の改善を図ることと、学校で子どもたちへの教育指導の改善・充実を図ったり、子どもたち一人一人の学習状況の改善などに役立てたりするためです。

主として「知識」に関する問題って どんな問題ですか？（Ａ問題）

単なる知識･技能等の暗記ではありません。次の２つの内容です。

- 身につけておかないと（小学校の場合）中学校に行って学習するときに困るような内容
- 実生活において必要な知識や技能で、常に使えるようになっていることが望ましいもの

つまり、きちんと習得しておかないと中学校や実生活で困るような知識･技能です。

主として「活用」に関する問題って どんな問題ですか？（Ｂ問題）

いろいろな課題を解決する力のことで、次の２つの力です。

- 知識や技能などを実生活のいろいろな場面で活用する力
- いろいろな課題を解決するため、自分なりに構想を立てて実際に実行し、その結果を自分で評価して解決方法を改善する力

つまり、知識や技能を実生活で役立てる力です。

生活習慣や学校環境等に関する 質問紙調査とはどんな内容ですか？

児童生徒に対する調査と学校に対する調査の２種類があります。

- 児童生徒に対する調査とは⇒学習意欲や学習方法、学習環境、生活に関する調査
  例：国語の勉強は好きですか？
  　　一日にテレビを観る時間は？
- 学校に対する調査とは⇒指導方法に関する取組や人的･物的な教育条件整備の状況
  例：休み時間や放課後の補習の様子
  　　コンピュータなどの活用状況

結果とその分析について

舞鶴小の子ども達の学力をより向上させるために、課題を中心に記載しています。ご了承ください。

＜国語Ａ問題＞

課題の内容が分かるよう問題を掲載しました

① 主語と述語との関係などに注意して文を正しく書くことは得意
② 相手や場面に応じて敬語を使うことは得意
③ 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことは苦手の傾向がある
④ 登場人物の心情について、情景描写を基にとらえることは苦手の傾向がある

＜上記④の問題と答＞中西さんは、武鹿悦子さんが書いた『くらやみの物語』を読み、心に残ったことについて説明することにしました。次の【物語の一部】をよく読んで、あとの（問い）に答えましょう。

■ 物語のこれまでのあらすじ

五年生の夏休みの終わりに、コウタは、カクロウをふくめた塾の仲間と花火大会を計画していた。お金を出し合って買った花火は、コウタの家の物置に入れていた。しかし、その花火は計画の当日にコウタの母親に見つかり、水につけられてしまう。コウタは、そのことをカクロウに伝え、カクロウと自転車で仲間のもとに向かい、報告をする。そこでコウタは仲間の一人に厳しくせめられてしまう。

【物語の一部】

「気にするなよ。」とカクロウはいった。「乗れよ。」コウタは、首を振った。そうか、と言って、カクロウは、気がかりそうに振り向きながら遠ざかっていった。（家になんか帰るもんか。）コウタは、歩き出した。（‥‥‥誰もいないところに行くんだ。）

家並みが切れて山道にかかると、カナカナと、草むらの虫の声が、はりさけそうに響いてきた。草がそよぎをとめ、草の穂波の向こうに沈む夕日が、あたり一面を火の海にしている。正面から夕日に向かう時、コウタは、目を細め小手をかざして歩いた。セミ採りに一、二度来たことのある小さいトンネルが見えてくると、コウタは、駆け込んでいって思いっきりの声で叫んだ。

（問い）中西さんは、特に心に残った文として――――部を取り上げ、その理由について説明しようと考えています。理由として最も適切だと考えられるものを、次の１から４までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。

1　登場人物の行動から、コウタのあわてている様子が伝わってくるから。
2　景色や様子を表す表現から、コウタの怒りやくやしさが伝わってくるから。
3　音を表す表現から、山の静けさと海の激しさが伝わってくるから。
4　登場人物の会話から、お互いを思う気持ちが伝わってくるから。

答　２

改善方策

○ 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことを筋道を立てて話したり書く機会を設ける。
○ 物語を読む時、登場人物の心情を描いた情景描写に気づくような指導を行う。
○ 目的に応じて必要な情報を捉えることができるような説明文の読解に心がける。
○ 引き続き、漢字は文の中の活用を見通して学習する。

＜国語Ｂ問題＞

① 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことは得意
② 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることは得意
③ 話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることは得意
④ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことはやや苦手（全国平均より上だが正答率が４０％に満たない）
⑤ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることはやや苦手（全国平均より上だが正答率が４０％に満たない）

課題の内容が分かるよう
代表的な問題を掲載しました

＜上記④の問題と答＞

星野さんは、「かみかみあえ」の虫歯を防ぐ効果に着目して【おすすめする文章】の［　　］を書くことにしました。そこで、以前メモしていた【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れてくわしく書こうとしています。［　　］に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【保健室の先生の話から分かったこと】

食べ物をよくかむと、
- 口のまわりの筋肉を動かすことになり、脳の働きが活発になる。
- 唾液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、虫歯になりにくい。
- 満腹感が得られ、食べ過ぎにならない。
- 食べ物本来の味が分かるので、薄味の食事に慣れる。
- 唾液の量が増え消化が良くなる。

＜条件＞

○ 【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 【おすすめする文章】にふさわしい言葉を用いて書くこと。
○ 書き出しの言葉に続けて、五十字以上、八十字以上にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は時数に含む。
※ 紙面の関係で、かみかみあえの【紹介する文章】と【おすすめする文章】については省略させていただいています。

答（正解例）

かみかみあえはするめが入っていて、よくかんで食べる献立です。よくかむため、だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくいのです。

改善方策

○ 説明文とそれに関わる作文の学習などで、書き手の意図を捉えながら読み、自分の意見と比べながら考えをまとめて書く学習を行う。
○ 目的や意図をしっかり持ち、内容の中心を明確にして、くわしく説明文を書く学習を行う。

＜算数Ａ問題＞

① 円周率の意味や直径の長さと円周の長さの関係についてよく理解している

② １８０°や３６０°を基に分度器を用いて、１８０°よりも大きい角の大きさを求めることができる

③ 単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している

④ 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることが得意

⑤ 十進位取り記数法で表された数の大小について理解することがやや苦手

⑥ 異種の２つの量のうち、一方の量が揃っている時の混み具合の比べ方を理解するのはやや苦手

課題の内容が分かるよう
代表的な問題を掲載しました

＜上記⑤の問題と答＞

次の３けたの整数の大きさを比べます。

５６２　　５□３

上の３けたの整数５□３の十の位には、まだ数字が入っていません。

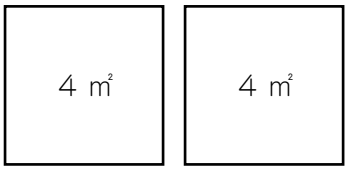
５□３が５６２よりも大きい数になるとき、□には、どのような数字があてはまりますか。０から９までの中で、あてはまる数字を全て書きましょう。

答　６　７　８　９

＜上記⑥の問題と答＞

こみぐあいについて、次の問題に答えましょう。

（１）㋐と㋑の２つのシートがあります。㋐と㋑のシートの面積は、同じです。



次の表は、シートの上に座っている人数とシートの面積を表しています。

座っている人数とシートの面積

	人数（人）	面積（㎡）
㋐	6	4
㋑	9	4

上の表から、混み具合についてどのようなことが分かりますか。下の１から３までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。

１　㋐の方が混んでいる

２　㋑の方が混んでいる

３　どちらも混み具合は同じである。

答　２

改善方策

○ 数の大小を比較するために、どのくらいの数字に着目すれば良いのかを判断することができるよう指導する。

○ 混み具合の意味を実感的に理解できるように指導する。

○ 問題文をしっかり読み、題意を確実に理解してから解くよう指導する。

○ 自主学習ノートや市販のドリル等に取り組み、基礎学力の向上を図る。

＜算数Ｂ問題＞

① 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が３６０°になっていることを記述できる

② 示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる

③ 折り紙の枚数が１００枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる

④ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる

⑤ 示された考え方を解釈し、他の数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することはやや苦手

⑥ 折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することはやや苦手

課題の内容が分かるよう
代表的な問題を掲載しました

＜上記⑤の問題と答＞

さくらさんたちは、学校の黒板に輪飾りをつけようと思い、先生から折り紙をもらいました。折り紙の枚数は１００枚でした。１枚の折り紙からは、折り紙の輪を５個作ることができます。折り紙の輪を３０個つなげて、輪飾りを１本作ります。

もらった折り紙は、赤、青、黄、緑の４色が、それぞれ同じ枚数ずつありました。

さくらさんは、折り紙の輪を、図２のように、赤、青、黄、緑の順に繰り返してつなげ、輪飾りを１本作ってみました。

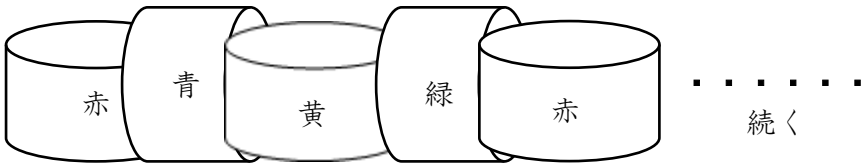


図２

（２）上の図２のように、１個目の折り紙の輪の色を赤にして、輪飾り１本を作った時、３０個目の折り紙の輪の色は何色ですか。

下の１から４までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。

１ 赤　　２ 青　　３ 黄　　４ 緑

答　２

改善方策

○ 日常生活の問題の解決のために、事象を観察して、規則性を見い出し、変化や対応の関係を基に、合理的、能率的に処理し、条件に合う事柄について適切に判断できるような学習を積極的に行う。

○ 日常生活の問題の解決のために、試行錯誤するなどして情報を収集し、それらを表に整理して、条件に合う事柄について適切に判断することができるような学習を充実する。

○ 問題解決型の学習に積極的に取り組み、様々な解決方法を考えさせ、さらに、自分の考えた解決方法を友だちに説明したり、友だちの考えを解釈したりする学習を積極的に行う。

＜理科問題＞

① 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している

② より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる。

③ より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる

④ 乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる

⑤ 調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析するのは苦手

⑥ 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述するのはやや苦手

＜上記⑤の問題と答＞

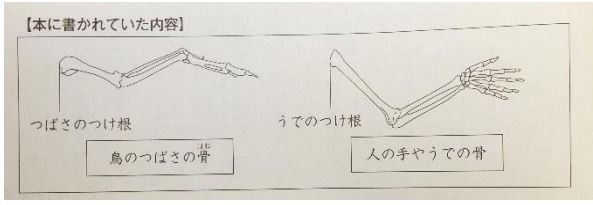
課題の内容が分かるよう
代表的な問題を掲載しました

鳥のつばさと人の手や腕のつくりで、
似ているところはあるかな？

たかしさん

【たかしさんのまとめ】

＜鳥のつばさと人や手や腕のつくり＞



《同じところ》

○ つばさや腕のつけ根からのびる骨は１本で、その骨から２本の骨が繋がっている。

○ 鳥のつばさも人の腕にも、つばさを折りたたんだり腕を曲げたりすることができる骨と骨のつなぎ目がある。

《ちがうところ》

○ 骨の数は、鳥より人の方が多い。

○ 骨と骨のつなぎ目の数は、鳥より人の方が多い。

（２）前のページの【たかしさんのまとめ】は鳥のつばさと人の手や腕のつくりについて、どのようなことを比べてまとめたものですか。２つ選んで、その番号を書きましょう。

１ 骨のかたさ　　２ 骨の長さ　　３ 骨の数　　４ つばさや腕が曲がる方向

５ 骨と骨のつなぎ目

答　３　５

＜上記⑥の問題と答＞　※ スペースの関係で省略します

改善方策

○ 調べた結果を基に考察する際に、問題に対応した視点で分析できるようにする。そのために、問題を明確にし、その視点に沿って結果から必要な情報を適切に選択する指導を行う。

○ 実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめができるようにするために、問題を確認し、実験などで得られた結果を根拠とした考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかについて検討する指導を行う。

○ 上記の学習を成立させるため、実験や観察をした後、自分の言葉で考察を行い、それに対して的確な指導を行う。

今後の改善方策について

国語と算数の具体的な指導の改善方策は、ここまで記したとおりです。国語と算数、さらには全教科や学校生活全般を通して、次のような改善方策を策定し、実施してまいります。

基礎基本のより一層の充実を図ります

・授業中に計算練習等の繰り返し学習や習ってきたことの復習を多く行い、基礎基本のより一層の充実を図ります。
・宿題はもちろん、自主学習ノートや市販のドリル等の自主学習に積極的に取り組めるよう指導し、基礎基本の確実な定着を図ります。そのために、今年度も「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、家庭学習の充実を図ります。
・家庭学習の成果を「あいかわギネス特別認定状」等で積極的に評価し、やる気を高めます。

活用する力をより一層高めます

・今後も、子どもたちの思考力や判断力、表現力を育てる「主体的･対話的で深い学び」に積極的に取り組み、特に、子どもが授業の主役となる「学び合い」の学習を普段の授業に取り入れ、活用する力を育成します。
・家庭学習でも、自主学習ノートなどの取り組みを通して、「なぜだろう？」「どうしてだろう？」ということを学習し解決するように子ども達に働きかけます。

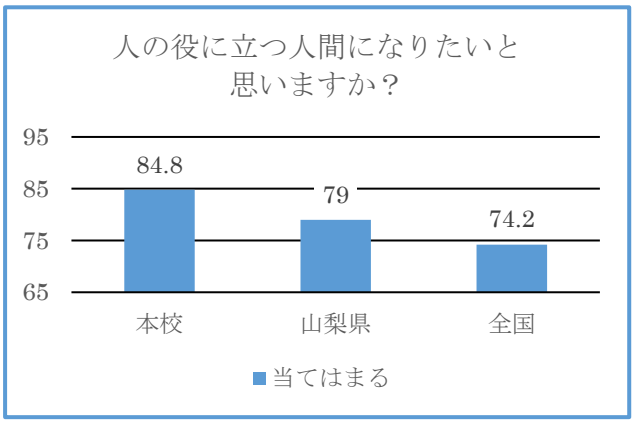
基本的生活習慣の育成を図ります

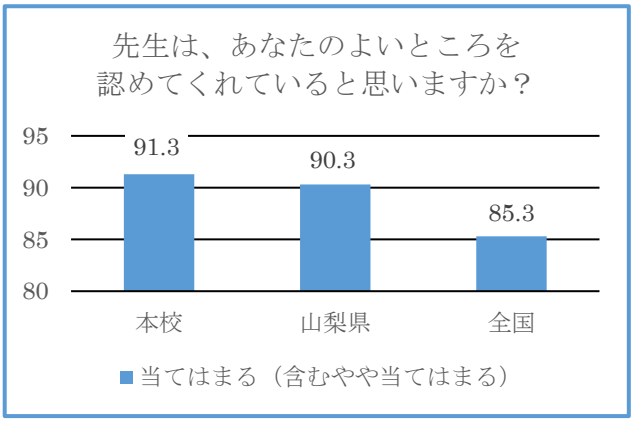
・今後も「あいさつ運動推進宣言校」や無言清掃の推進などを通して、学習の基となる基本的生活習慣を身につけます。
・整理整頓をとおして、基本的生活習慣の育成を図り、物事を整理しながら理解する思考を大切にします。

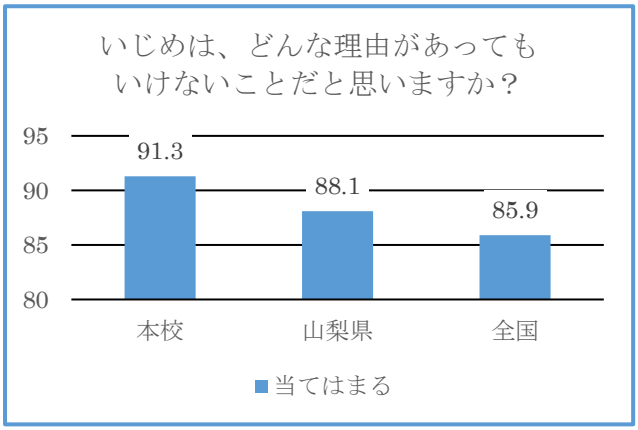
学級づくりをより一層進めます

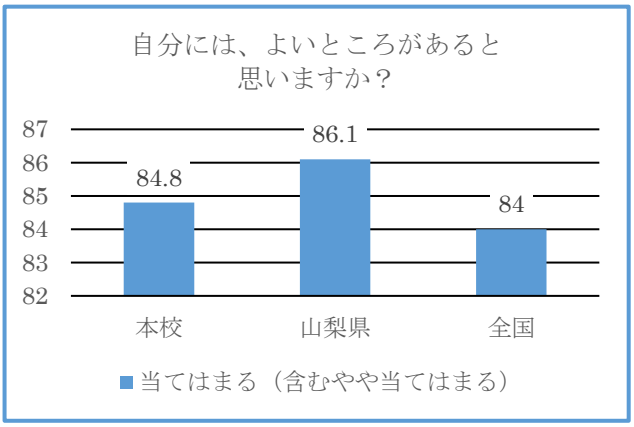
・より良い授業をするためには学級づくりが基本です。子どもたちが学級のきまりを守り、お互いに思いやり助け合う学級づくりを進めます。
・学校行事や学年･学級の行事や取り組みをとおして、個人としても学級学年としても成長できるよう指導します。

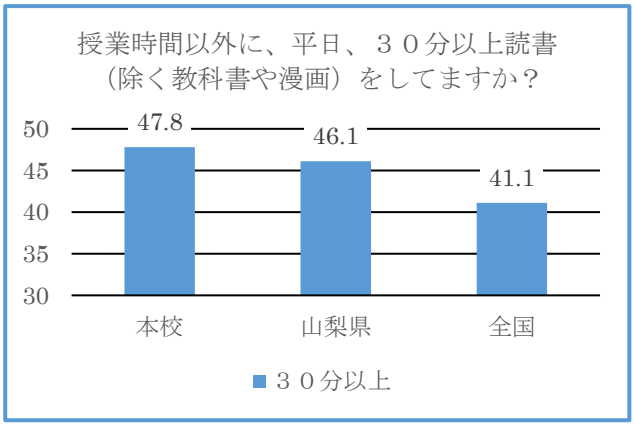
児童質問紙の結果とその分析について（生活編）

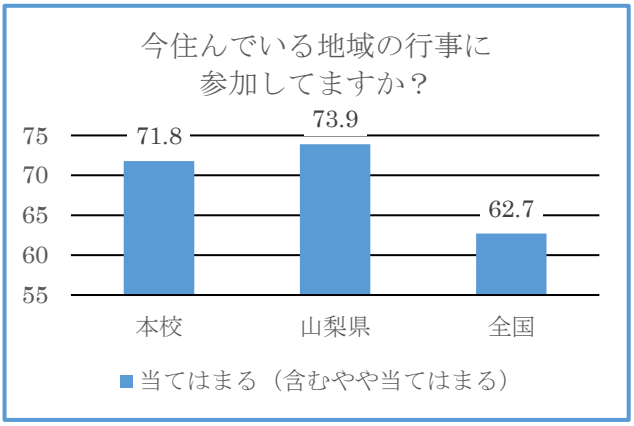












○グラフには表示しませんでしたが「朝食を毎日食べている」や「毎日同じくらいの時刻に寝ている」など、家庭での基本的生活習慣がしっかりしている児童が多くいます。

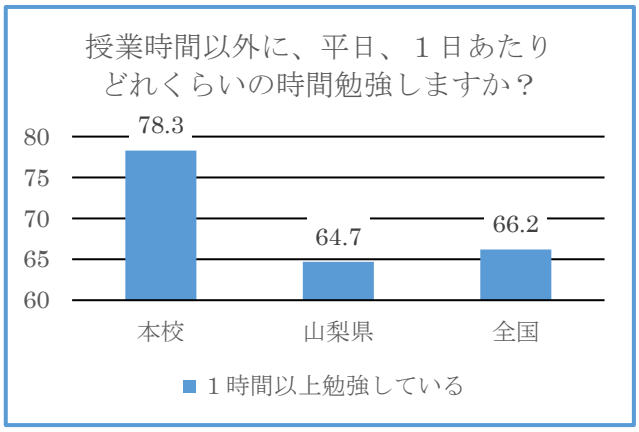
○ 人の役に立ちたいという意識が高く、先生から自分のよいところを認めてもらえることも多く、いじめはどんなことがあってもいけない行為だという規範意識も高い。そのような状況の中でも、自己肯定感が若干ではありますが県平均よりも低い傾向にあるので、さらに意識して子どもたちのよいところを評価し、自己肯定感をより一層高める指導を行います。

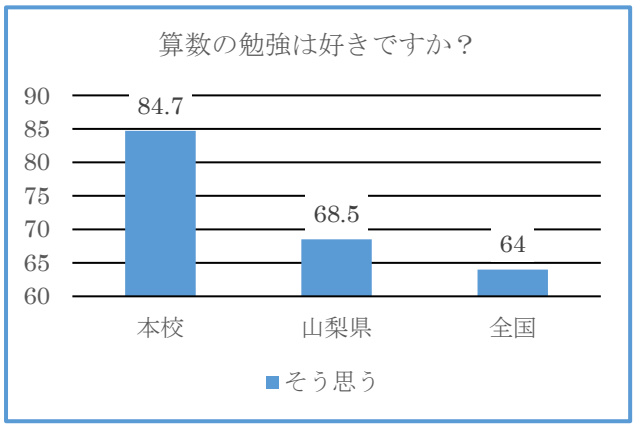
○ テレビゲームや携帯やスマホでの会話やメール、インターネット閲覧など、極端に長くする児童は少ないですが、さらに少なくなるよう家庭と協力します。

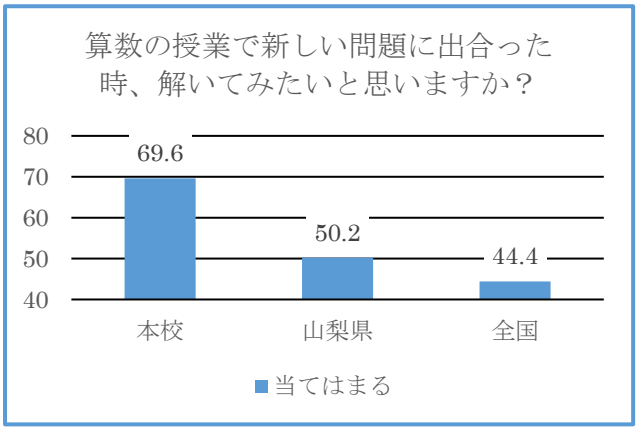
○ 本校児童は図書室にもよく行き、普段から本をよく読みます。

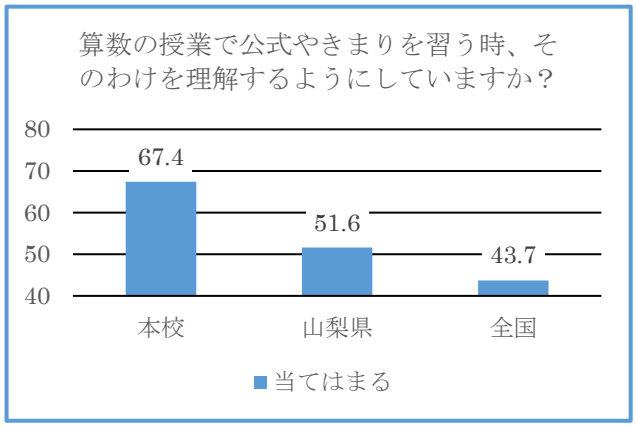
○ 地域の行事に参加する児童の割合が、昨年度より若干増えています。

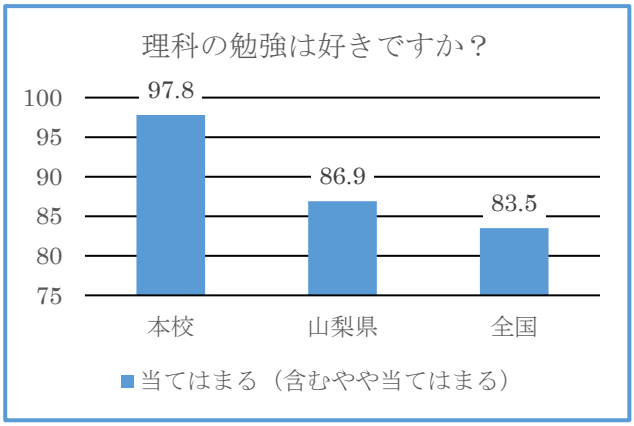
児童質問紙の結果とその分析について（学習・学校編）

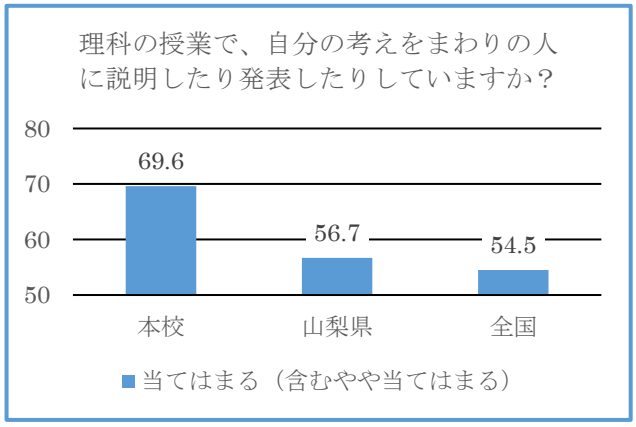












○ 平日や休みの日に１時間以上勉強している児童の割合は、全国や県の平均に比べて高いですが、６年生ではそれ以上の学習時間を指導していきます。

○ 昨年度より、算数の問題解決型の学習を通して思考力･判断力･表現力を育成できるように指導していますが、算数好きで新しい問題に挑戦し、公式等の理由を考える児童に成長しています。

○ 授業中に自分の考えを発表し、友達としっかりコミュニケーションしながら学習を進めるのが「学び合いの学習」でありアクティブ･ラーニングですが、理科の授業においても自分の考えを説明したり発表したりすることが積極的に行われています。

本校では保護者や地域にも恵まれ、望ましい教育活動ができていますが、慢心することなくより良い教育をめざして教職員一同努力して参ります。